## 淀み

誘惑のなまぬるい風が僕を眠らせ
全てを求めることを棄てる代わりに
全てを棄て去ることに慣れてゆく

人は人・・・
世界は世界・・・、そして———
それを失う哀しみの歌

夜の嵐が虚飾を振り飛ばし
垂れこめた雲の下をさまよい
ふと立ち止まる水辺

流されるがままを選ぶか
感情の重力をかき立てるか
僕は何故にこの哀しみの道

よそよそしい嘆きにむしばまれ
力ない言葉の羅列、そして
ああ、けだるい忘却の毎日

埃を掃き集めた水面に鈍く
陽光(ひかり)の残骸が散らばり
夏は抗し難く僕を押し沈める

ああ、陽光の残骸をなす術もなく
予感もなく
ああ、肩を落とすばかり

(1986.6.17)